

日頃の総合相談業務で感じていたこと

一人暮らし

認知症

男性

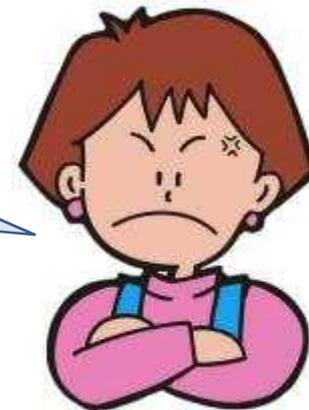
閉じこもり

若林の高齢者が歩いて行ける範囲に集える場がない！

まだデイサービスじゃないよね。行きたがらないよね。

高齢者が集う公共施設が足りない！
予約取れない！

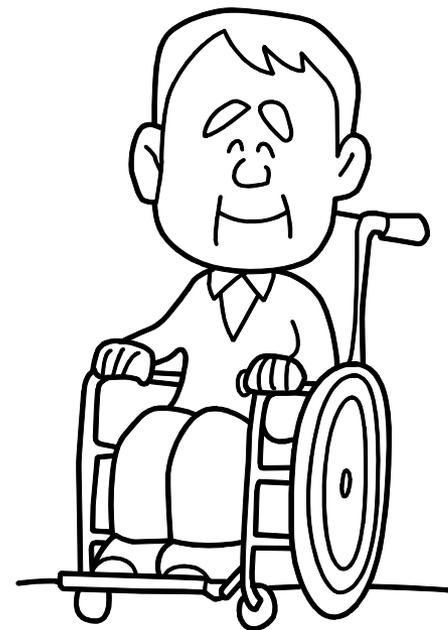
気軽にいつでも立ち寄れておしゃべりできる場所があったらいいのにね！



予防モデル事業の通いの場として 喫茶店で集まりを始めることに

〈取組みのきっかけ〉

- Aさん(要支援1, 男性)は、入退院による筋力低下で歩く機会が少なくなり、閉じこもりがちになっていた。
- デイサービスは気乗りがせず、Aさんが出かけてみたくなるきっかけが必要だった。
- かつて、喫茶店通いが楽しみだったと知り、喫茶店に行けるようになることを目標にした。



立ち上げ準備(H25年2月～4月)

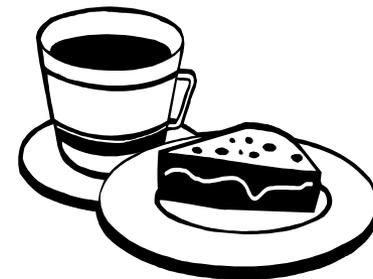
- 駅前の喫茶店(Aさんのなじみの店)の店主に、店の一角で集まりを開くことを相談。
これまで、地域包括支援センターは、商店会の会合に参加するなどのつきあいがあったので、快く引き受けてもらえた。

- 店の和式トイレは簡易洋式便座をかぶせて使用しやすくした(福祉用具事業者に協力要請)



- 住民運営の集まりにすることを念頭に、ボランティアの参加を呼びかけた。(日頃から高齢者の見守りなどに協力いただいている方に個別に依頼)

- 2名の協力者があり、事前に高齢者への接し方等の研修を行った。(社協の移動介助研修も受講)



月2回 午後2時30分～4時 参加費 300円

<初回>

- ・最初は、移動の介助を必要としない人で、話が合いそうな顔ぶれを人選。(話し役、聞き役などをマッチング)
- ・要支援1、要支援2、要介護2(いずれも女性)
- ・世話役になれそうな人には、いずれボランティアとして参加してもらうよう意識付けをした。
- ・住民ボランティア2名に、おしゃべりに加わってもらい、雰囲気づくり



<第2回目以降>

- ・男性にも参加を呼びかけて、毎回5～6人程度の集まりが定着
 - ・会の名前を「すこやかすてっぷ」と命名
 - ・立ち上げから5か月後に、この集いのきっかけになったAさん(要介護1)の参加が実現
 - ・Aさんの自宅から喫茶店まで、ボランティアが移動介助。
- これをきっかけに、AさんはPTの指導と歩行訓練をはじめようになった。

まとめ

1. 地域資源を活用する上での工夫と配慮

- 集いの後に、店主と話し合いをした。(営業に支障をきたすことが起きていないか等)
- 参加者の様子を見守ってもらうようお願いした。

2. 自主化に向けた工夫

- 参加者で、会の名前を名付けてもらい、愛着を持って参加できるようにした。
- いずれは、参加者の力で集まりを続けられるように、折に触れて話題にした。

【結果】

☆毎月2回の集まりが定着

☆定例日以外に参加者だけで集まることもある

☆参加者の中から、ボランティアとして世話役にまわる人が誕生。

☆今後は、地域包括支援センターの力を借りなくても、自分たちで集まることができる見通しがついた。

参加者の声

「家の近くにあるのがいいよ。歩いて10分以内が限度。」

「喫茶店ってのがいいよ。お茶飲みながら気軽に話せる。」

「ボランティアと思っていない。皆さんの話を聞いてすごく勉強になる。」